

第7回 金沢市都市計画マスタープラン策定委員会議事要旨

日時：平成 21 年 2 月 24 日（火）午前 10 時～正午

場所：金沢市役所 第3委員会室

【全体構想の修正箇所について】

【重点地区（旧城下町区域）のまちづくり方針の修正箇所について】

【地域別構想の修正箇所について】

【今後の展開とまちづくり案について】

（委員）

今回、資料をさらにきめ細かく修正いただいた。やはり金沢市都市計画マスタープランは、これからの最も重要な計画である。1月には歴史都市の認定を受け、日本の中でも有数の可能性のある都市、極端なことを言うと、一つの理想的な都市を目指すということも夢物語ではない。コンパクトシティの概念について少し示されているが、都心回帰はまだ起こっておらず、郊外化が続いていてまちなかは空洞化している。しばらく逆転しないのではないかという懸念がある。この資料を見たときに、ぐっと方向性が感じられるような、金沢としての具体的な方針が必要である。

例えば、ふらっとバスなどは金沢スケールである。21世紀美術館も低く抑えられており、ある意味金沢スケールである。小型の車も金沢にふさわしいと思う。パブリックコメントの中にも、LRTなど新しい交通システムの要望がかなり出てきている。今後の検討であるが、あまり大掛かりなものよりも軽量で軌道の幅も狭く、1両でのろのろと走って頻繁に来るようなミニLRTも一つの金沢スケールである。別の委員会でもミニ消防車の導入という要望もあった。

もともと町家というのは、コンパクトハウスというか、非常に合理的で高密度にできている。資料の中で示してあるが、これからの金沢型コンパクトハウス、コンパクトマンション、まちなか住宅団地も考えていけばいいと思う。また、町家地区についても別に考えられている。小さい特別モデル区のようなものを造り、広げていくという金沢型の開発というか、整理がいる。コンパクトシティという表現はあまり金沢らしさが出ないため、金沢スケールというか、コンパクト、スケール、シティといった表現もあるのではないかと思う。

市民の方から分かりやすくしてほしいという意見があったので、コンパクトシティの概念図をもう少し分かりやすくしてほしい。例えば、高度経済成長期に開発された額や光が丘などの住宅地では、空き家が増加してきていると聞くため、拠点をつくりながら再編していかなければならない。中山間

地も拠点づくりをしながら、山間地の保全や林業の振興を図る必要がある。どこまでコンパクトシティの概念の中にそれを入れていくか考えなければいけないが、コンパクトシティの概念図にこれからの都市の動き、つながりを示したらいいのではないかと提案したい。

(委員長) 確かにこの都市計画マスタープランには、新しい将来、時代に向かったの魅力的なイメージを簡潔に表すものがまだ打ち出せていない。青森がコンパクトシティという形でかなり先行的に概念を打ち出しているし、富山市は公共交通を核にしている。金沢の場合は、歴史や環境を踏まえた上で、何かうまく打ち出すようなキャッチフレーズがあったらいいと思う。これはどうも世界都市金沢の実現になってきている、これで都市計画マスタープランの何かを表すことにすると少しぼやっとしている。

(委員) 今回の意見に関連するが、コンパクトシティに向かっていくときのイメージをもう少し明確に打ち出せたらいいと思う。郊外化を抑制して、金沢の中心部に人口が集まってくるように方向転換することは、例えば私は森本に住んでいるが、森本は商業地域として生活の魅力がなさ過ぎる。郊外化を逆転させてコンパクトシティを目指すことは、金沢市域全体を考えたとき、さまざまな都市機能を提供する場所だとすれば、それよりも規模は小さいが、森本駅の近くに行けば一定の商業集積があり、市民生活に必要な公益公共施設もあるという階層性を持った地域構造をもっとしっかりと作っていかねばならないと思う。金沢市に全てを集めることではないという、生活イメージが読むと分かるようなまとめが最初にあると分かりやすいと思う。

(委員長) コンパクトシティは、中心に全てを集めるイメージがあるため、あまり良くないキャッチフレーズになる可能性がある。金沢の地域構造のようなものをうまく通しながら、それぞれの中心性や地域的な拠点が大事だということが出せばいい。

(委員) 金沢は電柱の地中化を進めているが、フランスのボルドーという町には架線がない。もしLRTを行うなら架線がない景観に配慮したものを進めてほしい。

交通結節点で電車とバスの連携を円滑にとあるが、具体的にどういう考えか。実際にはもう浅野川線や石川線をバス専用道として、乗り換えなしが一番円滑に行くと思う。

JR線の金沢都市圏については、新幹線の線路で県の土地が余った部分をバス専用にするなど公共交通を乗りやすくする案があるといい。

- (委員) 5章に出てくるイラストが非常に詳細に書かれており、非常に見づらい。本文の間に無理矢理入れてあるところもあり、問題である。5章については、レイアウトをもう少し見やすくしなければ、イラストが全く生きてこない。
- (委員長) 事務局でいろいろ工夫されたが、かえって分かりにくくなった。
- (委員) 内容については問題ないと思うが、読みにくい。例えば「歩ける歩行回廊」は、このサイズで見せるものではない。文字の大きさや色など、いろいろ複雑になっている要素を省いて簡潔にする必要がある。
- (委員長) 同じものをページに合わせて拡大や縮小している。その辺はもう少し検討する必要がある。
- (委員) 「歩ける歩行回廊」のイメージ図は、この表現で伝わるのかと思う。集落地の適正なまちづくりの誘導は、集落地だけでよいのか。集落地だけを取り上げている意味があるか。
- (委員長) 農村的な集落がある地域に出てくる。まちなかについては歴史的なまちなみということで出ている。
- (委員) 郊外では、例えば高尾住宅は、高尾村の周りにできているため、高尾村がもう分からなくなっている。そういうことを言っているのではないのか。
- (事務局) 市街化区域内は、基本的に住宅地になるよう、もしくは商業地になるよう定められている。だから、自助努力で活性化できる。中山間地の集落的な所は、利用を制約しているためまちなかに住んでいる人が市街化調整区域、もしくは都市計画区域以外へ行っって住宅を建設することは難しい。主に中山間地では、非常に高齢化が進んでおり、次の世代を担う人がいないという実態もある。都市計画全体から考えると、そういうところは農業サイドで議論すべきということにはならない。次代を担い、一定のコミュニティーを維持するためにも、農業政策に関わる部分については、集落と一体となり、一定の要件を満たした上で開発することが必要なことだと思い、特出しをした。集落の所に大きく輪を描いたことは、逆に誤解を招くことになったため修正する。
- まちなかであっても郊外型の住宅で、空き家となった土地は、駐車場にしてコンバージョンするなどして土地を有効に活用していただく。まちなかであれば、道路をやみくもに広くすることは、町の姿を壊すことになる。町の特性を活かした土地のあり方をもう少し議論しようということで、基本的なスタンスを示している。
- コンパクトシティの概念については、第2章で示している

が、いきなりコンパクトシティに向けて行動を起こすのは難しい部分である。金沢市としては、公共交通重要路線を皆さんに示すとともに、モビリティも確保していく。駅周辺については、具体的に拠点地区を位置付けし、近隣の商業施設、利便施設について方向付けをしていくことが必要だという認識で、最初の方に目的や視点を示している。

コンパクトシティは、第2章都市の将来像で示しているが、金沢市としては、この都市計画マスタープランが最上位ということでは必ずしもない。金沢市の長期構想や県の都市計画区域マスタープランに即した形で行う。この中にある世界都市金沢という表現は、「小さくてもきらりと輝く」ことが題目になっている。今回の金沢都市マスタープランでは、これまでの都市の拡大傾向、住宅地を伴うような開発を広げていくことはやめることを明らかに示している。既存のストックを活かした持続可能なまちづくりを進めることにより、世界の中で小さくとも独特の輝きを放つ「世界都市金沢」の実現を実施していきたい。

LRTは、経済界からも提言をいただいた。金沢市では、装置として今後の方向性について交通施策の中でかなり議論してきた。公共交通にシフトできるような環境を作っていかなければ、バスなど既存の公共交通をどうするのかという議論がある。新金沢交通戦略の中でも、公共交通の路線指定や維持、乗る環境を整備していくことを示している。併せて次世代の環境にも配慮した新交通を具体的にどうあるべきなのかなどについては、また別立てで議論していく。当面、平成27年～37年という目標を設けているが、具体的にLRTをいつまでに導入するという表現はなかなか難しいため、引き続き検討したいと思う。

提言のあった、架線のないLRTや金沢スケール、町の中を通すときの道路幅員のありようについて、金沢市としては、まちなかに入ってくる車両台数を減らすという目標で環状道路の整備をしている。第2弾、第3弾で計画的に方向を示す。

本編が非常に厚くなり、見づらいということが確かにあると思う。金沢市としては、これを基本として概要版を示すことが必要だと考えている。第5章のイラスト図が見づらいという話があったが、言葉だけを羅列すると一般市民の方になかなか読んでいただけないと思い、工夫して挿絵を入れた。もう少し見やすく改めていきたいと思っている。またご相談したいと思う。

(委員)

キャッチフレーズのようなものと概念図が欲しい。

(委員長) 「世界都市金沢」の実現についてはいいと思うが、これが都市計画マスタープランのキャッチフレーズになると分かりにくくなる。「世界都市金沢」自体が非常に分かりにくい言葉であるため、都市計画マスタープランとして内容をもう少し分かりやすい表現とし、あるいはそれに概念図が要るのではないか。

2-18、2-19の図は、公共交通だけをいっているため、非常に分かりにくい。現状では、中心に集めるとしか読みとれない。全体を見ていると必ずしもそうではなく、地域商業や地域拠点も出ているが、もう少し魅力的な分かりやすい表現や図などが要るのではないか。

(委員) やはり、金沢ということを出して行って、金沢交通システムや、金沢としてはちゃんと考えているということをおわせるようなキャッチフレーズも必要だ。キャッチフレーズを入れながら、2-18、2-19の概念図をもう少し広げて、そこにLRTと表現するのではなく、新交通システムを考えているということでもいいと思う。ただ、それがどういふふうにかつたに市民の方々に分かりやすく示されているかということではないかと思う。

もう一つ、これを拝見していると、都心では道をむやみに拡幅するのではないということと言われたが、今日はかなり拡幅する絵ばかり出てきているので気になった。それは郊外かもしれないが。

(委員長) 5-6のセットバックは、必ずしも道ではなく、建物の壁面を下げることを意味する。

(委員) 道を拡げるといふ意味ではないのか。

(事務局) 5-6ページを見ていただきたい。防災の関係で書いてあるが、道は道として、防災道路を確保するために建物を下げるという方法もある。下の方に、歴史的細街路の場合は、基準法の42条3項道路や4m未満の道路や連担建築物設計制度についてもうたい込んであり、必ずしも全部が全部広げるといふものではない。

(委員長) 第5章のイメージ図は、非常に専門的な内容となっているような感じになっている。

(委員) 金沢港でこれから賑わいを生んで、おそらくウォーターフロントの何か商業施設のようなものをお考えだろうが、現時点でのイメージはどのようなものか。

(事務局) 金沢港そのもののありようといふのは、今、国・県・市が具体的なところをどういふ方向性を示すのかといふ議論を今まだやっている。現状は、どちらかといふと物流に關した貨

物関係の岸壁など、そういうことになっている。今その方向性をもう少しきちんと整理している。このマスタープランの中に言葉で「利活用」という書き方をすると、逆にどういう使い方をするのかということで具体的な開発やいろいろなことが出てくるので、土地利用について少し検討するという表現とした。金沢港の今後のありようについては、今後深まった議論をしていく。

マスタープランは、5年で確認、10年で一度フィードバックをして見直しをすることになっている。少なくとも、今回見直しをしたら、5年するとこの中身を実態はどうかと確認する作業が当然必要になる。その段階では、もう少し明確化されていると思う。ここの表現は、ここで止めたというのが実態だ。今、議論している最中だと聞いている。

(委員) 5-69で「賑わい」という言葉が出てきているが。

(事務局) 臨海地域のテーマは、「金沢港を核とした活力と賑わいのある海の玄関口」という表現にしている。金沢港だけをいっているわけではなく、金石・大野地区を核としたという表現である。こういういろいろなところで目指す、「新都心と連携した金沢港の魅力や賑わい創出を目指します」というまちづくりの方針ということで挙げている。

(委員) 何かウォーターフロントに商業施設が来て賑わいがあるというイメージ図か。

(事務局) イメージ図に「ポートタウンやウォーターフロントとしての賑わいのある港づくり」という表現が書いてあるが、これは一つのイメージの域を出ていないというのが今の実態だと思っている。

(委員) 金石沖の埋め立てを見学してきたが、すごいことになっている。あれはどういう方向性があるのか。

(事務局) 地域の皆さん、有識者の皆さんでの金沢港も含めた中での議論を頂いていると聞いている。金石沖は埋め立てられた状況だけで、現在は都市計画区域の中にもまだ入っていない。今後の土地利用はもう少し深めていくという形が現状だと聞いている。

(委員長) イラストレーションだけにポートタウンやウォーターフロントの賑わいが出てくるのは理解しにくい。

(事務局) 文言で書いていないのに、イラストのみに具体的な表現を入れていいのかということは、おっしゃるとおりだと思う。

(委員) 金沢港だが、船で金沢港に観光に来たときに、すごく金沢的な和のイメージを想像しながら来たが、いざ金沢港に到着したら何もなく殺風景で全然面白そうではないから船から降

りなかったという話を聞いた。ポートタウンやウォーターフロントという横文字は、東京や大都市にあるような近代的なものをイメージしてしまう。都市マスタープランでは金沢らしい和風なつくりの賑わいを創出してほしい。

(委員) 交通のところで、パーク・アンド・ライドについて書いてあるが、私もだんだん年がたっておりまちなかへ行きたいと思っても車を停める場所がなく、現在あるのは南の方である。県庁あたりに車を停めて、例えば県庁から金沢駅間はシャトルバスなどでしか入れないように規制すると、まちなかに車に乗ってくることはないのではないのか。規制ということが明記してあったので、何か具体的に取り掛かってほしいと思う。

(委員長) 具体的な話になるとなかなか交通計画等検討しなければ駄目だ。今言われているイメージをするときには、駐車場の整備というだけでは駄目で、併せて中心部への乗り入れ規制をかなり強くかけないと駄目だ。

(委員) どこかに総量規制という言葉があったと思うが、スイスのように電気自動車を入れるというように極端にできないかもしれないが、だんだん環境の時代になっていくという方向へ少し強めに出ていった方が、みんな強制的に入れないとってセーブするのかなと思う。

(委員長) そういう方向性はイメージとして大体入っているが、具体的になると、中心部のかなり強い規制に市民的なコンセンサスを得ながら交通計画の中でやらないと駄目だ。都市計画もある。

(委員) イメージ図(例5-40)だが、幾つかタイトルが抜けているものがある。

(委員長) 何を表現しようとしているのか、タイトル、場合によってはもう少し説明書きのようなものが要するのかもしれない。

(委員) 公共交通の話だが、乗り物を新しいものにしても、乗るようなシステムを作らなければいけないとおっしゃったが、公共交通を非常に便利にするには、そういう規制も大事である。市民に対しての啓発、働きかけも大事だと思う。これからどういう展開で市民に啓発していくのか。交通事業者も含めてどう考えているのか。

(事務局) 金沢市とすれば、今現在ある交通環境はきちんと維持をしていかなければ悪循環になる。一つは、バストリガー方式であったり、ふらっとバス、コミュニティバスを入れるということをやっている。

もう一つは、お互いの連携がはっきりしていない、もしくはされていないというところがあり、お互いに気が付いてい

ないところもたくさんある。これは、市民の皆さんにいろいろなところでお話を聞く機会もある。私どもも定期的にバス事業者、鉄道事業者と話をすることがある。端的な例が、例えば西金沢の駅にJRと私鉄が非常に近い所にあるが、最終電車と朝と帰りの電車の接続は、駅との距離が非常に近いので2～3分あればいいが、今後、高齢の方がだんだん公共交通を利用すると、朝の時間帯は四十万方面から来た電車がJRに乗るときは、せめて4分ぐらい前にはちゃんと到着できるようなシステムになる。例えば、夕方になれば逆のパターンになる。お互いの時間の時刻表の調整すらしていないというところが、われわれとして気が付いたことがある。鉄道事業者にもこういうことがお客さんのニーズとしてあると思う。JRだとキク象コーナーがあって、お客さんの声を聞く窓口がある。もう一つ、北陸鉄道もまたそういうお客さまの声を聞く機会があるが、この声とこの声が必ずしもつながっていないので、そういうところはちゃんと事業者さんと話をするベースの中で市としても言うべきことは言うことが必要かと思っている。

昨日も、JRバスといろいろな話があり、山間部のバス路線の維持は非常に苦しいというお話があった。デマンドバスという言い方をしているが、呼ばなければ来ないということの裏返しになるということで、それでは困るのではないか。しかし、乗らないものにバスが赤字でやるというわけにはなかなかいかない。そうすると、乗る仕組み、もしくは地域の人たちの時間帯も含めて、どこが一番使いやすい時間帯になるのか把握するためにも、皆さんと話し合いをするためのベースが必要である。各々が自分の考えでやっていると、なかなかつながらない。事業者、利用者、行政が協働しなければうまくいかないのが実態である。金沢市とすれば、交通施策の中で定期的に打ち合わせをし、どうしたら利便が上がるのか、何が悪いのかを整理し、問題点を抽出して対応していくことが必要だと思っている。まずは、縮小傾向にあるものを、現状維持し、もう少し改善できることや必要ないものがあるのではないかといいところも、議論の中で必要なことだ。

(委員)

今、バスもそうだが、もっと市民の意見を聞くことが大切だと思う。やはり、こういうところを走ってほしいという意見は結構あるが、まだ反映されていない。環境問題や高齢者の問題など、ある程度規制なども受け入れるのではないかといい。そういう形の中で進めていただけたらいい。

将来的にLRTなどがあるが、軌道は1回外したら絶対駄

目だ。もっとほかにいいものが出てくると思う。

(委員長)

富山はLRTを新しくしている。

(委員)

頓挫したが、トヨタの無人走行バスがある。金沢が最初に取り上げればナンバーワンになった。JRも本当に線路から走って、町に出て、また次という新しいものがいろいろと計画されている。みんなが公共交通に乗らなくてはならないという意識付けを先に作る事が一番大事である。

(委員長)

今回、そういうことを議論する場では必ずしもないので、また別の機会に検討したい。

(委員)

LRTというような特定の言葉を載せるべきではないため、新交通システムでいいと思う。

(委員)

各地域のイラストに、例えば東山界隈のまちなみイメージなど地域の名前を示したらいいと思う。

(委員長)

自明的だと思ってあまり書いてないのかもしれないが、やはり具体的な場所の名称がいる。

(委員)

中山間地の農地は特に近年、耕作放棄地が増えた。金沢市の中山間地の8割、9割は兼業しながら農業をしている。各地域のイラストで描かれている耕作放棄地の図は、現状を表している。山間地は耕作を放棄すると、5年間で山林に戻ってしまう。金沢市としても、この耕作放棄地を何とか農地として維持したいという意向なので、そのような施設を山間地に何か、金沢市民全部が使えるような施設を計画して頂きたい。現状では、昔の農家を利用することもやっているが、これもできたら何かそういうことを少しやってほしいと思っている。

(委員長)

農林漁業サイドでまず計画しないと、ここで直接は難しい。今後の展開、あるいは全体的についてご意見があるか。

(委員)

定住促進をまちなかで図りたいわけだが、職場が必要だが事務所ビルは空きビルが多くなってきた。各地区から、町家などを活用した工芸作家等の活動の場の提供に努めるということもあった。一方で、病院や生活関連サービスというと、新たに工芸作家や伝統工芸の職人を金沢城の新丸に持っていくという案を地元の学生が課題で提案していたが、伝統工芸と全然結び付かないと私は批判していた。要は、新竪町商店街のように今も維持されている所もあるが、やはりどんどんシャッター商店街というか、寂れてきている。全体の商店街を復活させるのは不可能かもしれないが、集約的な整備を支援していくことが必要だ。

(委員)

自転車専用道が犀川と浅野川にある。浅野川沿いを歩いたり自転車で通ると、車もなくスムーズに移動ができるが、天

神橋辺りは幅が狭く、二人が交差するのも難しいため、自転車専用道を十分整備して頂きたい。

(委員長) 今後の展開の中では、金沢まちづくり市民研究機構が、これまで長い年月かなり実績がある。そういうことを少し入れたらいいのではないか。部門別の使用計画、これは都市的な計画がほとんど挙がっているが、やはり都市的な計画の中では、農林もかなり重要だ。それも挙げていく必要がある。

イラストの内容が今回初めて出てきたので中身やいろいろご意見いただいた。全体としてどこまでイラストの中で具体的例を入れるかどうか、もし、どうしても制度的なものまで入れるのであれば、説明書きが要る。それを途中に入れるか、後ろの方に入れるか、計画書としての面か、あるいは市民向けの内容、説明としてか、いろいろな面から検討しなければいけない。

(委員) 5-10で石引商店街と小立野商店街を結ぶ歩行者ネットワークの充実ということで、東山にあるような自転車レーンをしてみてはどうか。車で郊外へ買い物に行くより、自転車で近くに行った方がいい。

(委員長) いろいろご意見をいただいた。今回、一応最終回ということで、ご意見頂いたものを含めて、最終的に事務局で検討いただき、委員長に一任いただきたい。事務局と検討して最終案を取りまとめるということにしたいと思うが、いかがか。

(委員総意) 異議なし

(事務局) 今後の予定だが、今日、ご指摘をいただいた図面やイラストについては先生に少しご指導いただきながら整理をしたい。3月4日に金沢市の都市計画審議会が開催される。都市計画マスタープランは、この審議会の諮問を受けることになっている。諮問を受けた後は、石川県知事に通知するという形になる。今後は、これを広く市民の方に周知する予定なので、またよろしくをお願いします。

閉会

(事務局) 委員の皆さま方には、昨年度来、長期間にわたり審議頂き誠にありがとうございました。また、川上委員長におかれては、平成19年度から合計7回にわたり委員長の重責をお務め頂き重ねてお礼申し上げます。委員会は、今回をもって閉会となりますが、皆さまにおかれては、今後とも本市行政に対してご指導を賜るようお願い申し上げます。